

式辞(入学式 2016)

桜花爛漫、うららかな春。入学者の皆様、おめでとうございます。入学者のご家族、御関係の皆様おめでとうございます。

本日はご来賓として、名古屋石田学園理事長石田正城様、星城大学の地元の市として設立時からご支援賜っています東海市市長鈴木淳雄様、同じく知多市市長宮島壽男様、東海市議会議長早川直久様、東海商工会議所会頭白羽文彦様、東海市教育委員会教育長加藤朝夫様、星城大学後援会会長山中亨浩様、本学の提携校学校法人愛美学園啓明学館高等学校長中西新八郎先生、同じく提携校学校法人愛西学園愛知黎明高等学校長井上毅先生、東海市に所在で本学との連携の深い愛知県立東海商業高等学校長松林克也先生、また、愛知県立東海南高等学校長渡邊修先生、愛知県立知多翔洋高等学校長松田昌浩先生、学校法人名古屋石田学園星城高等学校長寺田志郎先生、学校法人名古屋石田学園理事眞田明様、星城懇話会会長谷口正明様をはじめ多くのご来賓のご来駕を賜っております。ご多忙のなか、誠にありがとうございます。衷心より御礼申し上げます。

星城大学のキャンパスは東海市富貴ノ台にありますが、ここはかつて標高50メートルの小高い山で、北の御嶽山を遠景に、西の鈴鹿連山、御在所岳の秀麗を背景に、紺碧の海、伊勢湾に、白帆の船が浮かび、白砂青松の海岸が続くという、美保の松原に引けをとらない絶景でありました。それで、海の上を翔洋なさせて天女がここにこられ天下一の風光を楽しんだといわれます。星城大学のある山は、天女の女(によ)をとって如来山といわれています。

東海市は、細井平洲先生の生地で、平洲先生もこの地をこよなく愛され、号を如来山人となされたほどでした。

東海市に来られた方は、平洲という名を冠する平洲小学校、平洲中学校、平洲保育園があり、本日来賓として齊藤稔先生がお越しくださっている明倫小学校もあり、細井平洲先生を顕彰する碑や像が随所にあることに、人によっては、驚かれるかもしれません。しかし、私から見ますと、もっと多くの平洲先生の像や記念碑があってもいいと思うくらいです。とくに星城大学への通学のため下車駅は平洲記念館への最寄り駅ですからこの駅前に、平洲先生が数万人の男女に身分を問わず、市民に人の道、政治のあり方、学問の力を説いておられる銅像がないのが、不思議なくらいです。

といいますのは、平洲先生の偉さを説明するのに、あの名君上杉鷹山公の先生であったということが決まり文句のように使われていますが、この説明では、不十分だと思うくらいに平洲先生の偉さは卓抜しています。

ここで要点を紹介しますと、第一に平洲先生は天明3年1783年4月に尾張藩がつくった藩校明倫堂の総裁・初代督学に就任されています。尾張藩は徳川御三家の筆頭の藩で、表向き石高は63万石ですが実質100万石といわれる大藩の藩校で、そのすごさはよくわかります。

第二に、先生は、1782年、明倫堂の創立の前年、尾張・美濃一帯で二ヵ月間社会教育にあたられますが、なんと9万3千人以上が受講したという記録が残っています。60日で割りますと、一日平均1550人になります。天明3年明倫堂の総裁になられて半年後、横須賀町玉林寺で行った10月29日の講義では聴講者2千人に達したと、これは当時の国、奉行人見璣邑氏が代官とともに臨席され記録を残しています。ご承知のように、天明の時期の人口は日本全体で約3000万人で、現在の4分の1の規模ですから、この数字の大きさには驚嘆します。

第三に、平洲先生は、1751年、あの封建的といわれる時代に、江戸で嚶鳴館を開き男女を分けず、身分を問わず、後に福沢諭吉が、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」と言われた民主的社會教育をなさったことです。アメリカの独立宣言は、1776年7月4日ですから、独立宣言よりも25年も早いのです。

実はこの点は、上杉鷹山公教育に生き、鷹山公の民主的色合いのある政治を導きだしたので、この政治的姿勢が、アメリカの歴史的な大統領、JFケネディ氏が、上杉鷹山公を高く評価なさった理由を形づくっています。

今日の入学式には、平洲会の会長深谷守行様が来賓としてご来駕いただいています、東海市には平洲記念館がありますので、皆様はぜひ何度も平洲記念館をご訪問ください。

こういう優れた方を育てる力が、愛知・知多の風土にあるのだと私は思います。ですから、愛知の工業出荷額は、2位の神奈川県、3位の大阪府のそれを足したよりも9兆円近く大きい、抜群の1位で、それを支えているのは知多半島ですが、なかでも東海市と知多市の貢献度は大きいのです。星城大学から西を見れば、溶鉱炉が2つもあり、コークス炉も元気に稼働しています。それなら、公害がひどいかといえば、この地では、夜は星がきらめき、キジも飛び、多種類のカモが池や川に来ます。カブトムシも多く、絶滅が心配されるメダカまでおります。

美しい公園には、四季とりどりの花が咲き、2つもキャンプ場があり、日曜などには多くの方が楽しんでおられます。

これらは、なんといっても企業と役所と市民と大学などの努力のたまものですが、東海市で学ぶ学生諸氏は、産業と自然とゆたかな生活が実現しているのを見ながら勉強できるのです。外国の大学から学長一行が星城大学にお越しになりますと、この点に感激なさいます。

皆様はそうした所で勉強できるのです。

それだけではありません。

星城大学は大学として一流の素晴らしい大学になっています。

社会が発展し良くなるには、様々な問題を、創造的に解決できなければなりません。そのためには、創造的解決力をもった人が数多く必要ですが、創造的人材を養成するのが、大学という高等教育機関の役割です。ところで、創造的人材を育てるには、大学の教員が創造力をもっていなければならないと思います。創造力をもっているかどうかは、研究力の高さでみることができます。大学の研究力を示す良い指標は、文部科学省と日本学術振興会の科学研究費補助金(以下科研費と略称します)の採択状況だといわれています。

静岡、愛知、岐阜、三重の東海4県には、全部で63の私立大学がありますが、科研費に採択されている教員の割合を昨年度と比較しますと、本学は30.2%で、なんと4位です。

大学の役割には、社会貢献もありますが、これは日経新聞が毎年全国の約750大学について調査し、上位300位までに入った大学のランキングを発表しますが、東海4県の63私学のなかで本学は地域貢献第6位です。科研費の1位から5位までの5大学の地域貢献ランキングをみますと、科研費1位と2位は全国300位以内には登場せず、科研費3位と5位の大学が地域貢献はそれぞれ15位と19位です。したがって、科研費で63大学中4位、地域貢献で6位は、63私学のなかで本学が一流であるということ、文科省と日経新聞の調査という信頼性のある機関の発表に基づきいえるわけです。

さらに、皆様と私たちが社会に向かって胸を張っていえるのは、創立者石田鑑徳先生が決め、現在の理事長と私たち大学人が大事にしている建学の精神があります。

建学の精神に基づき、本学経営学部は、経済的に困難で、学習塾に通わるのも難しかったご家庭の若者に、4年間の学納金、入学金をゼロにし、かつ生活支援のため、毎月3万円を支給するという、石田鑑徳先生奨学金を今年から始めることにしました。経営学部の定員の1%だけですが、大学として志の高い制度だと思います。

幸いにして、受験生などにも本学の実力と良さが浸透してきたのだと思います。私が学長になった2年前の4月は経営学部への入学者は141名でした。それが、昨年4月入学者は171名となり、今年は何と200名になりました。2年前から42%の増です。

学生数が増えますので、大学の経済状況も改善することを生かし、来年からは、リハビリテーション学部の学生にも入学定員の5%ですが、学納金をほぼ半額にする奨学制度を実施すべく現在検討しています。リハビリテーションは実習等で学生養成の費用が高つくしますので、当面これはやりたいという提案が、渡邊和子教授から出され、安倍基幸リハビリテーション学部長の実行案の提起があり、それをうけて石田正城理事長へ私が決定をお願いして、理事長英断で即決されたものです。全プロセスが1時間もかかっておりません。現在では、いろいろの機関で意思決定が遅くなり、弊害を生じていますが、このような即断即決、意思決定の早さは歴史的といえると思います。こういうことができるのは、建学の精神で、彼我一体、報謝の至誠、文化の創造、世界観の確立を謳いそれが共有されているからです。

実は、これだけでなく、建学の精神にもとづき、1年間長期アメリカ留学につきましても、大幅の

支援する制度を開始しており、今年4月末から13名の2年生がアメリカにむけ出発します。1年後には、英語が堪能になり、アメリカ文化を身につけて帰ってきます。

そういう素晴らしい大学に皆様は入学し、産業と自然とが共生し、豊かで健康的な生活が実現することに大きな貢献をできる知多、東海市で学生生活を送っていただけます。

これにぴったりの詩を暗唱して結びとします。愛知県西尾市吉良の茨木のり子さんの「六月」です。

どこかに美しい村はないか

一日の仕事の終わりには一杯の黒麦酒

鍬をたてかけ 籠をおき

男も女も大きなジョッキをかたむける

どこかに美しい街はないか

食べられる実をつけた街路樹が

どこまでも続き すみれいろした夕暮は

若者のやさしいさざめきで満ち満ちる

どこかに美しい人と人の力はないか

同じ時代をともに生きる

したしさとおかしさと そうして怒りが

鋭い力となって たちあられる

本日はおめでとうございます。

平成28年4月3日

星城大学

学長 赤岡 功